
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2008年12月8日号

©2008年10月における中国の大豆市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年10月における大豆市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

1 国産大豆の収穫は終息、2008年の全国大豆生産量は増加の予測

大豆の播種以降、主産地の降水が十分で土壌の湿度も良好であり、特に東北の産地の大部分で水分条件が前年に比べ大幅に向上し、初霜による大豆生産量への影響も大きくはなく、大豆の増産に有利な条件下にある。2008年の全国の大豆生産量は、当初3年連続の減少と見込まれていたが、こうした背景により、その生産予測は前年を上回るものと修正された。

2 第1～3四半期の中国の大豆輸入量は大幅に増加、大豆油輸入量はやや減少

2008年9月の中国の大豆輸入量は413万トンとなり、単月の輸入量としては史上最高水準となった。1～9月の輸入量は前年同期比32.3%増の2,869.5万トン、同じく輸出量は前年同期並みの37.6万トンとなった。また、大豆油輸入量は同4.9%減の184.3万トン、輸出量は同67.3%増の8.9万トンとなった。大豆粕輸入量は同4.6倍増の12万トン、輸出量は同36.8%減の44万トンとなった。

3 国内の大豆供給量は十分、世界の大豆生産量は増加

2007/08年度の中国の大豆輸入量は、前年度比21.8%増の3,782万トンとなった。2008/09

年度の総供給量は増加するものと予測され、国内の大豆供給は十分余裕のあるものとみられている。

国連食糧農業機関（FAO）に予測によると、2008/09年度は価格の大幅上昇の影響を受け、世界の大豆播種面積は大幅な増加が見込まれている。これにより、世界の大豆生産量は前年度比9～10%増で2.4億トンを超え、史上最高を更新すると予測され、世界の大豆需給ギャップはやや緩和されるとみられている。

4 2008年10月の国内外の大豆及び大豆製品価格は低水準で推移

2008年10月の中国の大豆、大豆油及び大豆粕価格はともに大幅に下落し、前年同月の水準を下回った。10月下旬には、政府による大豆の臨時備蓄政策の発動を受け、生産地の大豆買入価格はやや上昇した。ただし、消費地の国産大豆価格の上昇幅は比較的小さかった。同月の黒龍江省の搾油用大豆買入価格は1トン当たり3,382円で、前月比16.3%安・前年同月比10.3%安となった。山東省の四級大豆油の工場出荷価格は同8,783円で、前月比21.6%安、前年同月比2.9%高となった。山東省の中等大豆粕の工場出荷価格は同3,955円で、前月比13.6%安、前年同月比43.8%高となった。

同じく大豆、大豆油及び大豆粕の国際価格は大幅な下落を続け、その下げ幅は20%にも達し、2006年11月に価格が上昇基調となって以降、前年同期水準で初めての下落となった。同月の米国シカゴ取引所における大豆の平均価格は1トン当たり342.6ドルで、前月比19.9%安・前年同月比6%安となった。大豆油は同840.5ドル、前月比21%安・前年同月比6.1%安、大豆粕は同286ドル、前月比9.8%安・前年同月比6.4%安となった。

2008年10月のメキシコ湾における大豆の離岸価格（本船渡し価格＝FOB価格）は1トン当たり366.4ドルで、これを同2,503元と換算すると、中国国内の消費地価格に比べ同880元前後安かった。山東地区の輸入大豆の通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）は同3,823円で、当地の国産大豆仕入価格に比べ同40元前後高かった。